

プロップ理論の考察

—日本の異類婚姻譚の分析を例に—

浅野 堇

1. はじめに

「昔話研究」としては文化人類学的なアプローチが今もなお多い中で、1920年代に構造主義的な視点から昔話を分析し、ロシアの魔法昔話に共通する機能と構造を指摘したプロップの研究は大変興味深い。プロップの著作を読んでいくうちに、この理論を日本の昔話に適用した場合どうなるのか、という疑問が起こった。日本の昔話の中でも異類婚姻譚の「鶴女房」は、西洋の昔話とは異なる筋であるように見える。このような日本の昔話にプロップの理論を用いることでどのように分析できるかを試行し、プロップの理論の適用性／非適用性について考察を行うことで、プロップの理論を再考してみたい。

プロップの理論には有効性の範囲が限定される点や恣意的なところがあると指摘されており、すでにクロード・ブレモンやヘダ・ジェイスンによって修正案が出されている。しかし、これらの修正案はプロップの理論を昔話以外の物語に適用するために考案されたものである。本稿におけるプロップ研究はそのような一般化を目指すのではなく、プロップの理論を用いて日本の昔話を分析することでロシア以外の地域の昔話にどれほど適用が可能なかを確認し、プロップの理論では説明できない筋があった場合は、その筋に対応できるプロップ理論の拡張を行うことを目的とする。

プロップに関係する形態論を用いて日本の昔話を分析している先行研究には唐須教光『文化の言語学』（1988）、川森博司「日本昔話の構造と表現の研究」（1997）などが存在するが、「欠如」などの特定の機能に注目して簡略な分析がされているだけのものが多く、プロップの分析を仔細に当てはめている例は少ない。小方孝・藤原朱里・今淵祥平の論文「ストーリーの『機能』連鎖を比較的自由に設定できる方法—プロップに基づくストーリー生成機構の一般化—」（2014）ではストーリーコンテンツグラマー（SCG）というプロップの理論を利用したストーリー生成システムの開発に当たって唐須の分析した「鶴女房」を再分析しており、よりプロップの理論に近い表現方法で細部の機能を付け加えている。この二つの論文では「鶴女房」の最後で男と鶴が別れるという筋が「欠乏」（「欠如」）によって物語が終わる例として取り扱わ

れている。これらの先行研究では分析対象として日本の異類婚姻譚を多く取り上げている一方で、「鶴女房」の筋などにプロップの理論が適用できない部分があるように見えることから、「日本昔話の異類婚姻譚」に分析範囲を絞ってプロップの理論の適用可能性を探っていく。また、「欠如」以外のプロップの機能についても、日本の昔話ではどのような機能が現れるのか、日本の昔話における機能の有効範囲はどのくらいか、という点を明らかにするため、本稿の分析ではなるべくプロップの理論に沿った記述を行い、一つの昔話に対し考えられる複数の機能順序を提出し、検討する。

なお、日本昔話における異類婚姻譚として取り上げる範囲は、異類と人間の結婚が成功あるいは失敗する筋を持つ昔話とする。また、『形態学』の中でプロップは、昔話の登場人物に関して性別や人間と人間以外などの属性による区別を行っていないが、本稿では異類と人間という属性が昔話の筋に影響を与えている可能性も併せて分析・考察していく。

2. プロップの理論

ウラジーミル・プロップは1969年に『昔話の形態学 (Морфология сказки.)』の中で、ロシア昔話の登場人物の行為から31の機能を導き、ロシアの魔法昔話に共通する単一の類型を導いた。

分析の対象はAT分類300 - 749に属する魔法昔話とし、アフナーシェフの昔話集の第50話から第151話までのロシア昔話を取り扱った。その昔話の中では、登場人物たちの行為が定項の「機能」(функция / function) であるとし、31の機能を規定しアルファベットを割当てた。以下に記号とそれに対応する機能の概説を挙げる¹⁾。カッコ内はロシア語原典での記号と機能概説である。

α		導入の状況(<i>i</i>)
β	留守	家族の成員のひとりが家を留守にする(<i>e : o t l u c k a</i>)
γ	禁止	主人公に禁を課す(<i>b : z a p p r e t</i>)
δ	違反	禁が破られる(<i>b : n a p y u c h e n n e</i>)
ε	探り出し	敵対者が探り出そうとする(<i>b : v y v e d y v a n n e</i>)
ζ	情報漏洩	犠牲者に関する情報が敵対者に伝わる(<i>ω : v y d a c h a</i>)
η	謀略	敵対者は、犠牲となる者なりその持ち物なりを手に入れようとして、犠牲となる者をだまそうとする(<i>γ : p o d v o x</i>)
θ	幫助	犠牲となる者は欺かれ、そのことによって心ならずも敵対者を助ける(<i>g : p o c o n n u c h e c t b o</i>)
A	加害	敵対者が、家族の成員の一人に害を加えるなり損傷を与えるなりする(<i>A : v r e d u c h e n n e</i>)
a	欠如	家族の成員のひとりに、何かが欠けている。その者が何かを手に入れたいと思う (<i>a : n e d o c t a c h a</i>)
B	仲介／つなぎの段階	被害なり欠如なりが〔主人公に〕知らされ、主人公に頼むなり命令するなりして主人公を派遣したり出立を許したりする(<i>B : p o c l e d n u c h e c t b o , c o e d u c h e n n e</i>)

C	対抗開始	探索者型の主人公が、対抗する行動に出ることに同意するか、対抗する行動に出ることを決意する(<i>C : н а т и н а ю щ е е с я п р о т и в о д е й с т в и е</i>)
↑	出立	主人公が家を後にする(<i>↑ : о т п р а в к а</i>)
D	贈与者の第一機能	主人公が〔贈与者によって〕試され・訊ねられ・攻撃されたりする。そのことによって主人公が呪具なり助手なりを手に入れる下準備がなされる(<i>Д : п е р в а я ф у н к ц и я д а р и т е л я</i>)
E	主人公の反応	主人公が贈与者となるはずの者の働きかけに反応する(<i>Г : р е а к ц и я г е р о я</i>)
F	呪具の贈与・獲得	呪具〔あるいは助手〕が主人公の手に入る(<i>З : с н а б ж е н и е , п о л у ч е н и е в о л ш е б н о г о с р е д с т в о</i>)
G	二つの国の間の空間移動	主人公は、探し求める対象のある場所へ連れて行かれる・送りとどけられる・案内される(<i>Р : п р о с т р а н с т в е н н о е п е р е м е щ е н и е м е ж д у д в у м я ц а р с т в а м и , п у т е в о д и т е л ь с т в о</i>)
H	闘い	主人公と敵対者が、直接に闘う(<i>Б : б о р ь б а</i>)
J	標づけ	主人公に、標(しるし)がつけられる(<i>К : к л е й м е н и е</i>)
I	勝利	敵対者が敗北する(<i>П : п о б е д а</i>)
K	不幸・欠如の解消	発端の不幸・災いか発端の欠如が解消される(<i>Л : л и к в и д а ц и я б е д ы и л и н е д о с т а ч и</i>)
↓	帰還	主人公が帰路につく(<i>↓ : в о з в р а щ е н и е</i>)
P r	追跡	主人公が追跡される(<i>П р : п р е с л е д о в а н и е , п о г о н я</i>)
R s	救助	主人公は追跡から救われる(<i>С п : с п а с е н и е</i>)
O	気付かれざる到着	主人公がそれと気付かれずに、家郷か、他国かに到着する(<i>Х : н е у з н а н н о е п р и б ы т и е</i>)
L	不当な要求	ニセ主人公が不当な要求をする(<i>Ф : н е о б о с н о в а н н ы е п р и т я з а н и я</i>)
M	難題	主人公に難題が課される(<i>З : т р у д н а я з а д а ч а</i>)
N	解決	難題を解決する(<i>Р : р е ш е н и е</i>)
Q	発見・認知	主人公が発見認知される(<i>У : у з н а в а н и е</i>)
E x	正体露見	ニセ主人公あるいは敵対者(加害者)の正体が露見する(<i>О : о б л и ч е н и е</i>)
T	変身	主人公に新たな姿形が与えられる(<i>Т : т р а н с ф и г у р а ц и я</i>)
U	処罰	敵対者が罰せられる(<i>Н : н а к а з а н и е</i>)
W	結婚	主人公は結婚し、即位する(<i>С* : с в а д ь б а</i>)

プロップは、これら 31 の機能のうち欠落するものや、片方が選択されるともう片方は表出しない機能の組み合わせもあるが、その継起順序は常に同一であるとし、以下の総括の図式を示した。

$$ABC \uparrow DEFG \left[\begin{array}{cc} H & I \\ & J \\ M & N \end{array} \right] K \downarrow Pr-Rs OLQExTUW$$

プロップは昔話の中の登場人物を「イワン」や「バーバ・ヤガー」などの固有名詞ではなくそれぞれが担う役割を表す名称で分類している。基本的には「敵対者（加害者）」、「贈与者（補給係）」、「助手」、「王女（捜し求められる対象）とその父」、「派遣者」、「主人公」、「ニセ主人公」の7人であり、それぞれに行動領域が定められている。（登場人物への機能の割り振り）

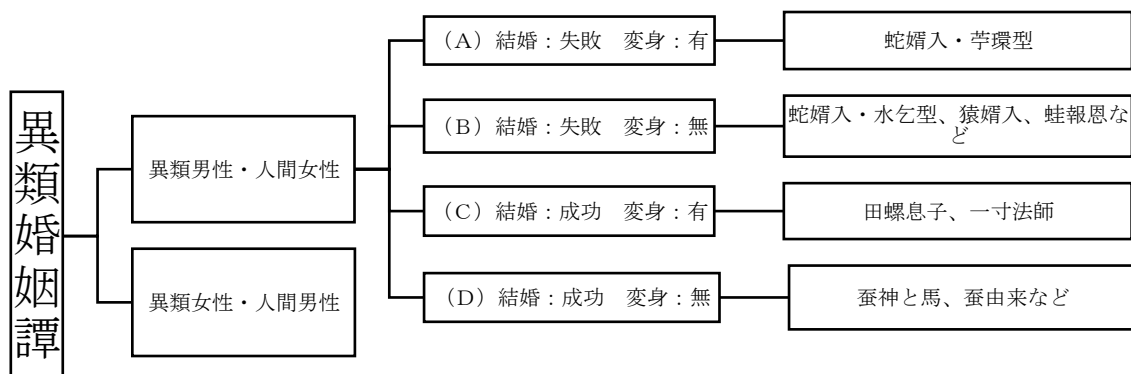
プロップは主人公の名前・属性・年齢・性別などは昔話の可変項であるとして、『形態学』では取り扱わないと述べている。（登場人物の属性と属性の意義）

3. 日本昔話の分析

本稿の分析ではプロップの分析方法を用いて日本の異類婚姻譚の筋をどのように表せるのか、あるいはどのような筋を表せないのかを探っていく。分析するテキストには関敬吾著『日本昔話大成』を使用し、本文中には内容を要約して示す。『日本昔話大成』にはAT分類の番号も併記しており、以下で使用するテキストはいずれもAT分類300-749の範疇に分類されているため、プロップが抽出した昔話と同じように分析が可能であると言える。分析表には英仏版で使用されているギリシャ文字+ラテン文字の記号を用いる。A¹、A²といった下位分類は、プロップが挙げている例に近いと判断できるものにはなるべく併記し、機能としては該当するが下位分類にはないモチーフについては記号のみで表記する。

また、本稿における「異類」の範疇は主に動物であり、「異類婚姻譚」の中でも人間と動物の婚姻にまつわる昔話を取り上げるものとする。

日本の異類婚姻譚を読んでいくうちに、異類が女性・人間が男性の異類婚姻譚では大きな筋の違いは見られないが、異類が男性・人間が女性の異類婚姻譚では全く異なる筋が複数存在している印象を受けた。この男性異類の異類婚姻譚の筋は「結婚」と「変身」のモチーフがどのように扱われているかに基づいて大別できるのではないかと考え、「人間女性との結婚の成功/失敗」と「異類が人間に変身している/変身していない」の組み合わせ4パターン（下図参照）に分けて筋を分析していく。



3-1. 異類男性・人間女性（結婚失敗型）

『日本昔話大成 2』の「婚姻・異類婿」の章を使用する。この章には異類の男性と人間の女性の婚姻にまつわる昔話が属している。「蛇婿入」「河童婿入」「鬼婿入」「猿婿入」「蛙報恩」「蟹報恩」は、人間の娘が異類の男性と結婚することになってしまい、娘本人あるいは娘の父親が異類を排除することで結婚を解消するというのが大筋である。

(A) 結婚：失敗 変身：有

●蛇婿入・苧環型²

この昔話は、男性が異類であると気付かないうちに人間の女性が加害され、その解消を目指すということから主人公：人間の女性、敵対者：異類の男性と割り振られており、基本的なA - K（加害とその解消）を含んだ筋であると言える。

η	娘が正体不明の男と関係を持つ。
θ	
(A ⁶)	娘が男の子供を妊娠する。（この時点の話の中では明言無し）
C	娘は両親に諭され、男の正体を探るため男の着物の裾に糸を通した針を刺す。
↑	娘は糸の跡を追う。
B	娘は男とその母の話を立ち聞きし、男の正体（蛇）と蛇の子を妊娠していることを知る。
F ⁵	蛇たちの会話から蛇の子供のおろし方を知る。
↓	娘は家へ帰る。
K	娘は聞いたことを実行し、蛇の子供はおろる。

「蛇婿入・苧環型」の類話のうち蛇信仰のモチーフが残るものは男の正体が蛇と判明した後、娘が蛇の子を産み蛇を奉るといった筋を有するが、その他は蛇の子を身ごもったことを解消すべき事由として扱っているため、娘が蛇の子を妊娠したことをAと置いた。また、この場合のF⁵は物体としての呪具ではなく情報であるが、加害を解消するものとして呪具の役割を担っている。

(B) 結婚：失敗 変身：無

●蛇婿入・水乞型³（河童婿入/鬼婿入（AT408が接続）/猿婿入/蛙報恩/蟹報恩はほぼ同型）

この昔話は上記と同じ題名を冠しているが、初めから男性が異類であるとわかっている点が異なっている。異類の男性との婚約を解消するため人間の女性（あるいはその父親）が異類の男性を倒すという筋になっているため、主人公：人間の女性、敵対者：異類の男性という割り振りは同一である。

ζ	父親が娘を嫁にやる条件で枯れた田に水をはってくれる者を募る。
A ¹⁶	蛇が水を入れた代わりに娘を要求する。
D ⁷	父親が娘たちに蛇の嫁になることを頼む。
E ⁷	三番目の娘（以下、娘）が了承する。

F ¹	娘は嫁入り道具として針、瓢箪、真綿を手に入れる。
B ²	娘は嫁に出される。
C	娘は蛇のいる沼へ行く。
↑	
H ¹	娘は真綿で口を閉じ、針を刺した瓢箪を沈めるように蛇に頼む。
I ¹	蛇は針が刺さって死ぬ。
K	娘は家に帰る。
↓	

姥皮型の話につながるものではH¹I¹がd7E7の機能を兼ね、蛇に迫害されていた蟾蛙から呪具を受け取る筋が続く。

以下H¹I¹以降。

F ¹	娘は蛇を倒したお礼におんばの皮をもらう。
↑	娘は家には帰らずある村へ着く。
O	娘はおんばの皮を被ったまま長者の家で働く。
M	長者の家の長男がおんばの皮を脱いだ娘の姿を見て恋の病にかかり、飯を食べなくなる。医者、屋敷中の女にお膳を持たせて長男がお膳を食べた者を嫁にすれば治るといふ。
T	娘は風呂に入っておんばの皮を脱ぐ。
N	長男は娘の持ってきたお膳を食べる。
W*	娘は長男と結婚する。

これらの類話は加害 - 解決、難題 - 難題の解決などの要素が揃っており、プロップの理論が当てはまる例であると言える。さらに姥皮型の話型に接続するものは、娘が難題を解いて人間の「長者の息子」（ロシア民話における「遠い国の王子」にあたる）と結婚するという展開にはプロップの機能もほぼ順番どおりに現れ、ロシア民話に頻出する筋との近似が見られる。また、異類との結婚を白紙に戻した娘が人間の男性と結婚し幸せになるという筋は、異類と人間の対比する構成になっていると考えられる。

また、「蛙報恩」では「機能 A に先立つ機能 DEF」の倒置が起こっており、娘の父に命を助けられた蛙が人間に化けて登場するが、「敵対者」である蛇を倒すための助言を与える助手としてのみ現れ、婚姻には関わらずに話の最後で正体を明かして去るという筋になっている。

3-2. 異類男性・人間女性（結婚成功型）

『日本昔話大成 3』の「誕生」の章を使用し、その中でも「田螺息子」「一寸法師」の昔話を扱う。この昔話は「異類婿」と同じく異類の男性と人間の女性の婚姻にまつわる話だが、異類の男性が人間に変

身して人間の女性と結婚することが話の結末となっている（結婚が成功する）という点が異なっている。

「田螺息子」は田螺や蛙など異類の姿で生まれてきた主人公が人間の女性と結婚しようと策を講じて女性を手に入れ、その後女性の働きかけによって人間の姿に変身し結婚するという筋である。一方で「一寸法師」は異類ではなく小さな人間の姿で生まれてくる。「一寸法師」の筋では小さな子供として生まれた主人公が鬼退治に成功し、その結果金や米を手に入れ父母と幸せに暮らす、あるいは大きくなって立派な若者となり人間の女性と結婚するという二種類の結末が多く見受けられる。

(C) 結婚：成功 変身：有

●田螺息子⁴

この昔話は一貫して田螺（類話によっては蛙）が主人公として行動している。また、探し求められる者には長者の娘が該当するため、話の中で直接的な敵対行動を伴ってはいないが長者は敵対者にあたると考えられる。長者から娘を獲得するための道具を渡す田螺の父親（爺さん）は贈与者である。

田螺が人間に変身しないまま話が終わる類話も数話あるが、ほとんどの筋で終盤に人間への変身が含まれている。

・「田螺息子」分析 1 (MN型)

α	子供の居ない爺さんと婆さんが神に祈って田螺を授かる。
a ¹	(妻の欠如)
↑	爺さんと田螺が長者に呼ばれて町へ行く。
<i>弱い</i> <i>DE</i>	長者の娘と結婚したがる田螺を爺さんが諫めるが、田螺は娘を欲しがる。
F	爺さんは田螺に米一握りの入った袋を持たせる。
M	田螺は長者に米の袋を預け、その米がなくなった場合何でも言うことを聞くと約束させる。
N	田螺は娘の口に米粒をつけて娘が食べたように見せかけ、娘を連れて行く。

W*	娘は田螺を受け入れる	A	娘は田螺を拒絶して殺そうとする。	□ ⁵	(娘の反応無し)
----	------------	---	------------------	----------------	----------

T	田螺が人間の姿になる。
W	人間になった田螺と娘が結婚する。

上記の表の中に斜体で示した「弱いDE」と置いた部分は、田螺がおじいさんから貰う「米一握りの入った袋」が次の難題を解決するために必要な呪具であるとした場合、贈与者・おじいさんから主人公・田螺への贈与（機能F）が起こっていると考えられるが、その贈与に至るおじいさんと田螺の会話に「D：贈与者の第一機能」と「E：主人公の反応」の要素が含まれているのではないかと仮定して置いた。プロップも『昔話の形態学』の中で試練の弱められた形としてD²などの下位分類を挙げているが、プロップの想定している贈与者が多くの場合「主人公と偶然出会う」⁶形で登場するとしていることから、他人

ではない身内であるおじいさんとの会話によって呪具を得る「田螺息子」の場合はロシアの昔話に見られる贈与者の試練よりも達成し易くなっているのではないかと考え、「弱いDE」とした。

この分析表はプロップの継起順序に沿って展開しているように見えるが、「難題」に該当するMの部分はプロップの理論とは異なる点がある。『昔話の形態学』ではMの機能は「王女あるいはその父」の行動領域であり、主人公の行動領域ではない。「田螺息子」では主人公である田螺の策に長者と長者の娘が嵌められる形で難題とその解決が起こっており、これが純粋なMの機能に該当するとは言い切れない。

WとAと□が並列している箇所は、娘が田螺の嫁になることを受け入れる反応、拒絶し田螺を殺そうとする反応、あるいは娘の反応が示されないという場合があるが、いずれも田螺が人間の青年に変身する展開に続く。これは「田螺息子」の筋における可変項であると言える。

上の表の「田螺が人間の姿になる」という筋にはTを置いた。プロップが「T：変身」で挙げた下位分類は4つあり、いずれも主人公である人間が変身するというものだったが、プロップは『昔話の形態学』では人間と動物の区別を行わないとしていることや、娘の反応によって田螺が人間に変身しているため、異類である田螺が変身する場合でも「T¹：助手の呪力の働きによって主人公に直接新しい姿形が与えられる」という下位分類も当てはまるのではないかと考え、娘が探し求められる者の役割だけでなく助手の役割も受け持つパターンについても分析を行ってみた。上記の表でMNと置いた部分をDEFに置き換えたものが以下の表である。

この場合、主人公は田螺、贈与者は爺さんと長者、探し求められる者と助手が長者の娘である。

・「田螺息子」分析2（DEF型）

α	子供の居ない爺さんと婆さんが神に祈って田螺を授かる。
a ⁶	(人間の姿の欠如)
↑	爺さんと田螺が長者に呼ばれて町へ行く。
弱い DE	長者の娘と結婚したがる田螺を爺さんが諫めるが、田螺は娘を欲しがる。
F	爺さんは田螺に米一握りの入った袋を持たせる。
D	田螺は長者に米の袋を預け、その米がなくなった場合何でも言うことを聞くと約束させる。
E	田螺は娘の口に米粒をつけて娘が食べたように見せかけ、娘を連れて行く。
F	田螺は娘を手に入れる。
T ¹	娘が手に入ったことにより田螺が人間の姿になる。
W	人間になった田螺と娘が結婚する。

こちらの分析表においても先ほどの表のMと同じくDの行為者が主人公であるという齟齬は生じているが、田螺息子の「変身」に必要なのは娘の行動ではなく娘の存在であることを明確に示している。

●一寸法師⁷

一寸法師の話においても主人公として行動するのは一寸法師であるが、探し求められるものは娘、もしくは金銭である。「敵対者」として現れるのは多くの場合鬼である。

一寸法師の昔話は『日本昔話大成 3』の中で「一寸法師・鬼征伐型」と「一寸法師・聾入型」と「一

一寸法師」に分けられているが、収録されている話のほとんどで鬼と戦う筋が挿入されている。また、一寸法師の話の中には「田螺息子」で見られたような「異類から人間の姿へ変身する」行為が含まれていない類話もある。一寸法師として挙げられている類話の中で「鬼を倒したが普通の人間の大きさに変身しない」という筋は「一寸法師・鬼征伐型」では12話中9話、「一寸法師・聾入型」では19話中5話、「一寸法師」では5話中1話であった。

「一寸法師・聾入型」は聾入型と題にあるとおり婚姻の要素を含む類話を集めているが、「異類から人間の姿へ変身する」筋のある話が多く含まれていることから「異類から人間の姿へ変身する」行為が婚姻と強く結びついていることが伺える。

・「一寸法師」分析1（結婚を含まない筋）

α	お爺さんとお婆さんの下に小さい子供（一寸法師）が生まれる
a^5	（金銭が不足している）
\uparrow	一寸法師が家を出ていく
H	一寸法師は鬼と戦う
I	一寸法師は鬼に勝利する
K	一寸法師は金や米を手に入れる
\downarrow	一寸法師は家に帰り父母と幸せに暮らす

・「一寸法師」分析2（結婚を含む筋）

α	お爺さんとお婆さんの下に小さい子供が生まれる
a^1	（妻が不足している）
\uparrow	一寸法師が家を出ていく
H	一寸法師は鬼と戦う
I	一寸法師は鬼に勝利する
K	一寸法師は金や米や宝物を手に入れる
T^1	一寸法師は宝物の力で立派な若者になる
W	一寸法師は鬼から救った娘と結婚する

この「田螺息子」、「一寸法師」が他の異類婚姻譚と大きく違う点は、異類の男性が主人公に据えられているということである。しかし、「変身」するタイミングは話の終わりであって、後述の「鶴女房」などに似る。

(D) 結婚：成功 変身：無

「蚕神と馬」、「蚕由来」は人間の娘と馬が地上では結ばれなかったが、死んで天に昇った後結ばれて蚕になって地上に降りてきた、という筋であり、異類から人間への変身、あるいは人間から異類への変身のどちらにも該当しないため、本稿の分析の対象外とする。また、「犬婿入」の結婚は人間同士の結婚

であり、異類の変身も生じていないため取り扱わない。

(その他)

『日本昔話大成 2』の「婚姻・異類婿」の章には「蜘蛛婿入」、「木魂婿入」が収録されているが、「蜘蛛婿入」は異類の変身はあるものの、結婚は人間同士で行われている。「木魂婿入」では結婚も変身も行われていないため、分析の対象としない。

3-3. 異類女性・人間男性

『日本昔話大成 2』の「婚姻・異類女房」の章を使用する。この章には人間の男性と異類の女性の婚姻にまつわる昔話が属している。基本的には、異類である女性が正体を隠して人間の男と結婚するも、何らかの理由で女性の正体が明らかになり男性の下から去っていく、というのが大筋である。この「異類女房」の最も大きな特徴として挙げられるのは、異類女性と人間男性の婚姻関係がほぼ必ず破綻するという点である。ヨーロッパの昔話では筋の最後で婚姻が成立して終わるものが多く、「異類女房」はそれらと比較されることも多い。プロップが機能順列の最後に配置した「結婚」が破綻して終わる日本の異類婚姻譚はどのように分析できるだろうか。

●鶴女房⁸ (蛙女房／蛤女房／魚女房はほぼ同形)

鶴女房をはじめとする異類女房譚に共通する特徴として「一度成立した結婚が後に破綻する」という筋が挙げられる。ここでは「結婚」と、3-2で結婚との関わりを示した「変身」に着目して分析していく。

以降の「鶴女房」では人間の男が主人公、探し求められる者が妻(鶴)あるいは金銭であり、「敵対者」は不在であるとして分析を進める。

先行研究で挙げた唐須はその著書『文化の言語学』(1988)の中でプロップの民話の構造分析が言語の構造分析と近似していることを示している。唐須はプロップ、アラン・ダンダスの理論を用いて「浦島太郎」、「鶴女房」、「雪女房」、「猿の婿どの」の4篇⁹を分析しているが、「欠乏」と「欠乏の解消」に着目した分析を行っているため、他の部分に対してはあまり緻密な分析がなされていない。小方孝・藤原朱里・今淵祥平の論文「ストーリーの『機能』連鎖を比較的自由に設定できる方法—プロップに基づくストーリー生成機構の一般化—」(2014)ではこの唐須の分析を引用し、小方らの開発しているストーリーコンテンツグラマー(SCG)¹⁰に組み込むため、「鶴女房」のより詳細な再分析を行った。この論文では分析を表にしていらないが、本稿で表記している形に変換したものが以下の表である。表中の網掛け部分が唐須の論文に対してこの論文で新たに加えられた部分である。

・小方の分析[小方 2014]

α	導入の状況	母と二人暮らしの嘉六という男がいる。
a ¹ 、a ⁵	欠如(妻)、欠如(金銭)	
M	難題	嘉六は畏にかかった鶴を見かける。
N	解決	畏をかけた男から鶴を買い取り、逃がす。

K	欠如（妻）の解消	立派な娘がやってきて、嘉六の嫁になる。
γ	禁止	妻は戸棚に入るが中を見ないように言う。
K	欠如（金銭）の解消	妻が織り上げた反物を売る。
δ	違反	嘉六は戸棚を開ける。
<u>Ex(?)</u>	<u>正体露見（妻）</u>	<u>戸棚の中に裸の鶴を見つける。</u>
a ¹	欠如（妻）	裸の鶴が正体を明かして去る。
C	対抗開始	嘉六は別れた鶴に会おうとする。
↑	出立	嘉六は日本中を探す。
G	二国間の空間移動	嘉六は爺さんの小舟で鶴の羽衣という島に渡る。
K	欠如（妻）の解消	嘉六は裸の鶴を見つける。
a ¹	欠如（妻）	嘉六はしばらく島にいたが、爺さんの舟に送られて帰って来
↓	帰還	る。

小方の分析では下線を引いた「Ex：正体露見」の機能に関して疑問が残る。プロップの機能としては「ニセ主人公の正体露見」であり、真の主人公の発見が伴うものである。

以下に「正体露見」の機能を除いた本稿の分析を表にした。なお、以降の分析ではより一般的な「鶴女房」の筋を用いるため、鹿児島県薩摩郡上甕島の類話に特有の「男が去った鶴を追って島へ行き、帰ってくる」という部分は考察しない。

・「鶴女房」分析1（MN型）

α	導入の状況
a ¹ 、a ⁵	欠如（妻）、欠如（金銭）
M	鶴が捕らえられている。
N	男は捕まっている鶴を助ける。
K	男は男の元を訪れた女と結婚する。欠如（妻）の解消。
γ	妻（鶴）は機織を見ることを禁止する。
K	男は織物を売る。欠如（金銭）の解消。
δ	男は禁を破って機織を覗き見る。
※	男が鶴の正体を知る。
a	妻が鶴の姿で去る。欠如（妻）

小方の分析ではExとなっていた部分を※印に置き換えた。この部分では妻（鶴）が人間の姿から異類である鶴の姿に変化している。プロップの機能「T：変身」で説明可能だった田螺息子・一寸法師との違いとして「主人公の行為ではない」「人から異類への変化である」という点が挙げられる。現状この部分を説明できる機能は存在しないのではないかと考え、プロップの分析記号にない記号によって置き換えている。ここに当てはまる機能を考察するため、続いてMNを用いない分析を構築してみたい。

「鶴女房」の筋の中の「男が女と結婚した後／妻は機織を見ることを禁じるが／男は禁を破って機織を覗く」という行動を「結婚」／「禁止」／「違反」の機能であると解釈すると、プロップが分析に使

用したロシア民話の「マーリヤ・モレーヴナ」の序盤に近似した構成を見ることが出来る。

●マーリヤ・モレーヴナ

I	α	導入
	β	イワンたちの両親が死ぬ。
	A ¹	鳥と妹たちの結婚（三回化）。
	C	イワンは妹を探しに行く。
↑		
II	B	兵士たちが倒れており、イワンがマーリヤの存在を知る。
	G	イワンはマーリヤの元へと向かう。
	W*	イワンはマーリヤと結婚する。
III	β	マーリヤが戦争へ行く。
	γ^1	マーリヤがイワンに物置を見ないように言いつける。
	δ	イワンは物置を見る。
	A ¹	コシチェイが解放されてマーリヤが連れ去られる。
	↑	イワンはマーリヤを探しに行く。

(以下分析表省略)

(『昔話の形態学』323 - 341 頁参照¹¹⁾)

この「マーリヤ・モレーヴナ」は「四つの行程からなる複雑な話」¹²として挙げられており、上記の表では段落によって各行程を表している。IIおよびIIIの行程における着色した一連の機能(W β γ δ A)が「鶴女房」の筋に近似しているのではないかと考え、以下のように構築した。

・「鶴女房」分析2 (γ δ a型)

α	導入
a ¹ 、a ⁵	欠如(妻)、(金銭)
M	鶴が捕らえられている。
N	男は鶴を助ける。
W	男は男の元を訪れた女と結婚する。欠如(妻)の解消。
β	妻(鶴)が機織をするため部屋にこもる。
γ	妻は機織を見ることを禁止する。
K	男は織物を売る。欠如(金銭)の解消。
β	妻が機織をするため部屋にこもる。
γ	妻は機織を見ることを禁止する。
δ	男は禁を破って機織を覗き見る。

※	男が鶴の正体を知る。
a ¹	妻が鶴の姿で去る。欠如（妻）

この分析表では「マリーヤ・モレーヴナ」の「マリアが戦争に行く」というβ（留守）を「妻（鶴）が機織をするため部屋にこもる」という行動に置き換え、追加した。また、「鶴女房」には加害者が登場しないため、「マリーヤ・モレーヴナ」ではA（加害）となっている最後の部分はa（欠如）に置き換えた。

唐須と小方はMN（難題 - 解決）の後にKを置いているが、MNの後であればW（結婚）の機能が来ること十分考えられる。

大塚英志は著書『ストーリーメーカー 創作のための物語論』の中で、「行って帰る物語」として「鶴女房」の類話を挙げており、鶴を主人公と見立てて、異類の側から見れば「鶴女房」は「行って帰る物語」なのではないかと述べている¹³。ここまでの分析では男が主人公であるという前提で分析をしてきたが、本稿ではプロップの理論における主人公の設定について考察するため、鶴が主人公であると考えた場合の分析を試みた。

a	鶴は命を助けてもらった男に借りがある状態。
↑	鶴は恩を返すため男のもとへ行く。
K	鶴は報恩を果たす。
↓	鶴は元の姿に戻り元の世界へ帰る。

これは鶴が男に命を助けてもらった恩義を「借り」がある状態＝欠如と解釈し、報恩の達成が欠如の解消になるという構成で考えたものである。このように筋を大幅に削ることでプロップの「↑：出立」と「↓：帰還」の機能を含んだ分析は出来るが、やはり鶴が主人公であるといった視点からプロップの分析を行うことは難しいと考えられる。

一方で、報恩という行為から主人公が男、鶴が助手である場合を仮定し、本稿の分析2のMN（難題 - 解決）及びγ（禁止）、γδ（禁止 - 違反）の部分をDEF（贈与者による試練）に置き換えたものが分析3の表である。具体的には「男が捕まっている鶴を助けたことにより妻を得る」部分を第一の試練、「男が妻に機織を見るなどと言われ、約束を守り金銭を得る」部分を第二の試練、「男が再度妻に機織を見るなど言われたが、約束を破って何も得られない」部分を第三の試練とした。男は第一、第二の試練を達成したが、第三の試練を達成できなかったという構成である。

・「鶴女房」分析3（DEF型）

α	導入の状況
a ¹ 、a ⁵	欠如（妻）、欠如（金銭）
d ⁷	鶴が捕らえられている。
E ⁷	男は捕まっている鶴を助ける。
K F ¹	男は男の元を訪れた女と結婚する。欠如（妻）の解消。
D ¹	妻（鶴）は機織を見ることを禁止する。

E ¹	男は機織を見ない。
K F ¹	男は織物を売る。欠如（金銭）の解消。
D ¹	妻（鶴）は機織を見ることを禁止する。
E ¹	男は禁を破って機織を覗き見る。
F _{neg}	（譲渡は起こらない）
※	男が鶴の正体を知る。
a ¹	妻が鶴の姿で去る。欠如（妻）

この分析において鶴は探し求められる者と助手と贈与者の役割を兼ねている。¹⁴

見るなの禁を課しDEFを二度繰り返している第二、第三の試練にあたる部分は、主人公、ニセ主人公と行為者が分かればAT403「黒い花嫁白い花嫁」¹⁵の筋に近似している。

●蛇女房¹⁶

次に蛇女房を取り上げる。蛇女房は鶴女房に近似した筋を持つが、鶴女房で見られた報恩の原因にあたる部分（罨にかかっていた鶴を助ける）があまり見られず、正体が露見した際に妻（蛇）から語られるだけのことが多い。また、鶴女房と異なるのは男と妻（蛇）の間に子供がもうけられることで、これはほぼどの類話にも見られる。子供がいるために、妻（蛇）が男の下を去った後も男は妻（蛇）に会いに行き、妻（蛇）も子のために行動するという筋が接続する。以下の分析はそういった筋を含めた蛇女房の分析である。

α	独身の男がいる。（妻の欠如）
a ¹	
W	女が嫁に来る。
γ	妻は出産しているところを見るなど言う。
δ	男は出産しているところを覗き見る。
※	男は妻が蛇の姿になっているのを見る。
a ¹	妻は正体を明かして去るが、子供のために道具を残す。
?	男の住む土地の殿様や隣人によって子供のための道具が二度奪われた後、蛇が怒って災害をもたらす。

？と置いた部分は男を主人公として分析した場合、プロップの機能がうまく当てはまらない部分である。妻（蛇）が去った後、男は妻が残した道具を殿様や隣人にただ奪われ、そのことを妻（蛇）に報告するだけである。この行動は主人公としての行動ではなく、「B：つなぎの段階」で主人公に被害を知らせる役割に近いと考えられる。また、妻（蛇）の行動も人間に対して加害しているものの、男と子供には前もって逃げるように忠告しているため、人間全てに対する「敵対者」として加害しているとは考えにくい。よってこの部分では報告を受ける妻（蛇）が主人公であると仮定して？と置いた部分のみ分析すると以下ようになる。

A	妻（蛇）の子供に持たせた道具が殿様や隣人によって奪われる。	二回化
B ⁴	男が妻（蛇）に道具が奪われたことを報告する。	
H	妻（蛇）が怒り土地に災害をもたらすが、男と子供には前もって逃げるよう忠告する。	
I	災害によって殿様が死んだり村がなくなったりする。	

蛇女房では妻（蛇）が子供に残す道具が自身の眼球である場合が多く、はじめ去るときに片目を取り出し、一度失くした際はもう片方を取り出して与えるため、二度失くすともう与える目のない妻（蛇）が怒り、災害をもたらすと言う筋になる。ふたつめの目玉を渡した後二度目の加害が起こらないパターンでは、両目のない妻（蛇）が男に昼夜が分かるように鐘を鳴らすよう頼み、男は約束を守り続けたと締められ、H I が起こらない。

蛇女房は主人公が変わる部分で分離する二つの話を併せたものと考えられる。男が主人公である前半部では鶴女房と同じ構造を有しているが、鶴女房では結末だった「妻が正体を明かして去る」という行動に「子供のために道具を残す」という行動が付け加えられており、そこから妻（蛇）が主人公として行動する二つ目の話に接続していると考えられる。上で挙げた蛇女房の分析表を合わせると以下のようになる。

α	独身の男がいる。（妻の欠如）	
a ¹		
W	女が嫁に来る。	
γ	妻は出産しているところを見るなど言う。	
δ	男は出産しているところを覗き見る。	
※	男は妻が蛇の姿になっているのを見る。	
a ¹	妻は正体を明かして去るが、	α 子供のために道具を残す。

A	妻（蛇）の子供に持たせた道具が殿様や隣人によって奪われる。	二回化
B ⁴	男が妻（蛇）に道具が奪われたことを報告する。	
H	妻（蛇）が怒り土地に災害をもたらすが、男と子供には前もって逃げるよう忠告する。	
I	災害によって殿様が死んだり村がなくなったりする。	

「狐女房・聴耳型」、「狐女房・一人女房型」の構成は「蛇女房」と近似するが、「蛇女房」の筋に見ら

れたHIへ続く例はほぼない。「狐女房・二人女房型」として括られている類話ではそのほとんどに「許婚（あるいは妻）に狐が化けているのに男が気付かず結婚する」という前提を含むものであり、それ以降は「聴耳型」、「一人女房型」とほぼ同一である。

『日本昔話大成 2』の「婚姻・異類女房」の章では「猫女房」という小見出しが設けられ、岩手県遠野市と長崎県下県郡の二例が紹介されているが、この二例は共通した筋を持たず、類話の数も少ないため、本項では分析を行わないものとする。また、「竜宮女房」「天人女房」「笛吹婿」は人間以外と人間の婚姻譚として「婚姻・異類女房」の章に収録されているが、「竜宮女房」で主人公と結婚する竜宮の娘や「天人女房」の天女、「笛吹婿」の大王菩薩の娘は本稿で扱う「異類」¹⁷の範囲から外れているため、本稿では取り扱わないものとする。

4. まとめ

本稿では、魔法昔話が単一の構造を持つというプロップの主張を承け、日本の異類婚姻譚を対象にプロップの理論の有効性の検証を試みた。本稿の分析はロシアの昔話研究から導き出された31の機能とその順序を日本の昔話に当てはめた場合、どのように適用できるのか、あるいは適用できない昔話があるとするれば、どういった筋が説明できないのかを明らかにするものである。それを基にして、既存の機能の適用が難しい昔話の筋にはどのような機能が適当かを考察した。

分析対象は日本の異類婚姻譚の中から異類と人間の間の婚姻の要素が含まれているものとし、複数の機能順序が考えられるものはそれぞれの分析表を提示した。分析の結果、日本の異類婚姻譚内でもプロップの理論が適用可能なものと、適用が難しい筋を持つものがあった。「異類男性・人間女性」とした昔話の筋は結婚成功型・失敗型ともに比較的プロップ理論の適用度が高く、機能の継起順序にも逸脱は見られなかった。一方で、「異類女性・人間男性」とした昔話の筋には複数の機能配列が想定され、プロップの理論では説明しきれない部分が見られた。

分析の結果を受けて、「異類」、「変身」、「結婚」を中心に、日本の異類婚姻譚の筋にはどのような要素が現れているか、それらはどのような機能を用いて説明できるのか、既存の機能で説明できない部分はどうのように補えるか、という点について考察を行った。特に適用が難しかった「異類女性・人間男性」の昔話に表れる「人間から異類に変身する」行為を軸に、各機能の検討を行ったうえで登場人物の役割を中心に考察を進めることとした。「人間から異類に変身する」行為者である異類の妻の役割を検討したところ、「主人公」、「敵対者」（妻が敵対者になる場合を含む）、「ニセ主人公」、「派遣者」は該当せず、「探し求められる者」の役割は「人間から異類への変身」が行われる時点では十全な役割を果たさなくなっていることがわかった。このことから、異類の妻が担っているのは「助手」と「贈与者」の役割であり、「異類女性・人間男性」の昔話の筋で説明できない部分が「贈与者」の行動範囲にあたるものとして、機能Fの拡張「F*」を提案した。

本稿では分析の対象を日本の異類婚姻譚に限定したため、ロシア昔話に基づいたプロップの理論が「日本の昔話全般」に適用可能かどうかを調べるのが出来なかった。また、昔話と言う対象の特性上ひとつの題にひとつの筋があるわけではなく、各昔話に対して挙げられている複数の類話を考慮した上で筆者が

代表的な筋を取り上げて分析を行ったが、その際多少なりとも筆者の主観が影響してしまっている点は反省したい。また、先行研究では「欠如」への言及が多く、本稿では変身や結婚に関する機能を中心に考察を進めたため、機能DEFなど他の機能を中心にすることでプロップ理論の有効性が明らかになり、より一般的な機能順序を構築することが可能になるかもしれない。プロップの理論を発展させることで、日本の昔話のみならず世界の昔話にも適用可能な単一の図式が導き出すこともできるのではないだろうか。

〈参考文献〉(刊行年順)

○プロップの著書

В.Я.Проп Морфология сказки. Лабиринт: Academia, 1928.

В.Я.Проп Русская сказка. Лабиринт, 1984(2000).

В.Я.Проп Исторические корни волшебной сказки. Лабиринт, 1986(2000).

ウラジーミル・プロップ (斎藤君子訳) 『魔法昔話の歴史的起源』、せりか書房、1983年。

ウラジーミル・プロップ (斎藤君子訳) 『ロシア昔話』、せりか書房、1986年。

ウラジーミル・プロップ (北岡誠司・福田美智代訳) 『昔話の形態学』、水声社、1987年(1991年)。

ウラジーミル・プロップ (斎藤君子訳) 『魔法昔話の研究 口承文芸学とは何か』、講談社、2009年。

○アフナーシェフの著書

А.Н.Афанасьев (Составитель М.Люстров) Русская народная сказка. Олма-пресс, 2003.

アレクサンドル・アフナーシェフ (中村白葉訳) 『ロシア民話集 (アフナーシェフ民話集) 1』、現代思潮社、1977年。

アレクサンドル・アフナーシェフ (中村白葉訳) 『ロシア民話集 (アフナーシェフ民話集) 2』、現代思潮社、1977年。

アレクサンドル・アフナーシェフ (中村白葉訳) 『ロシア民話集 (アフナーシェフ民話集) 3』、現代思潮社、1977年。

アレクサンドル・アフナーシェフ (米川正夫訳) 『ロシア民話集 (アフナーシェフ民話集) 4』、現代思潮社、1977年。

アレクサンドル・アフナーシェフ (米川正夫訳) 『ロシア民話集 (アフナーシェフ民話集) 5』、現代思潮社、1977年。

○日本の昔話資料

関敬吾 (編) 『日本昔話大成』2、角川書店、1978年。

関敬吾（編）『日本昔話大成』3、角川書店、1978年。

○プロップに関するもの

谷口勇「プロップのレヴィ=ストロースへの反論：『民話の形態論』をめぐって」『イタリア学会誌』(23)、1975年、97-114頁

アラン・ダンダス（池上嘉彦訳）『民話の構造〈アメリカ・インディアンの民話の形態論〉』、大修館書店、1980年。

ジェイ・エドワーズ（橘弘文訳）「民話の構造分析—プロップ/ダンデス以降」『ユリイカ』7月号1986年、183-193頁

森田浩子「グリムのメルヘンの構造—プロップの理論による分析—」『岡山大学 独仏文学研究』第13号、1994年、37-53頁

ベナル・カリム「神話の構造主義的分析—キャンベル,プロップ,レヴィ=ストロース」『国際文化学研究：神戸大学国際文化学部紀要』9、1998年、27-39頁

飯塚聡「ウルトラマンの構造分析—プロップの手法の応用による異類婚姻型昔話との比較—」『工学院大学 共通課程 研究論叢』第36-1号、1998年、131-139頁

大塚英志『ストーリーメーカー 創作のための物語論』アスキーメディアワークス、2008年（2013年）

坂内徳明「ヴラジーミル・プロップ再考：20世紀ロシア民俗学史の構築をめぐって」『言語文化』46、2009年、23-39頁

黄暉「『三言二拍』中の『集合離散』物語について—プロップの『機能』説による分析の試み」『神奈川大学大学院 言語と文化論集』第15号、2009年、135-182頁

オカン・ハルク・アクバイ「プロップの理論から見る八雲作品」『八雲』第22号、2011年、71-77頁

藤原朱里・小方孝「民話の構造分析を利用した『プロップに基づくストーリーコンテンツグラマー』の一般化と拡張」『情報科学技術フォーラム講演論文集』13(2)、2014年、331-334頁

○日本昔話に関するもの

小松和彦「怪物退治と異類婚姻—『御伽草子』の構造分析—」『日本文学』26(2)、1977年、1-17頁

関敬吾・野村純一・大島廣志（編）『日本昔話大成』12、角川書店、1979年。

小沢俊夫『世界の民話：ひとと動物との婚姻譚』中央公論社、1979年。

河合隼雄『昔話と日本人の心』岩波書店、1982年。

小松和彦『説話の宇宙』、人文書院、1987年。

唐須教光『文化の言語学』、勁草書房、1988年（1993年）

川中子弘「女神冥界降り—魔法昔話の祖型論」『文化論集』(1)、1992年、150-127頁

難波美和子「異類婚姻譚の『異類の妻』と『異類の夫』」『文学研究論集』10、1993年、117-129頁

川森博司『日本昔話の構造と表現の研究』、1997年。

川中子弘「牛頭の王—女神冥界降り（Ⅱ）—」『文化論集』(16)、2000年、378-329頁

斎藤君子「ロシアの異類婚姻譚—『蛙の王女』を中心に—」『千葉大学 人文研究』第31号、2002年、247-260

頁

今渕祥平・小方孝「物語論の情報デザイン—プロップに基づくストーリー生成規則の自動獲得—」『人工知能学会論文集』（CD-ROM版）、2013年、2I4-3in

今渕祥平・小方孝「プロップ理論を包括するストーリー生成機構の開発の現状と課題」『人工知能学会論文集』（CD-ROM版）、2014年、2F4-OS-01a-3

小方孝・藤原朱里・今渕祥平「ストーリーの『機能』連鎖を比較的自由に設定できる方法—プロップに基づくストーリー生成機構の一般化—」『人工知能学会論文集』（CD-ROM版）、2014年、2F5-OS-01b-2in

○その他

ハンス＝イェルク・ウター（加藤耕義訳）『国際昔話話型カタログ 分類と文献目録』、三秀舎、2016年。

1 ウラジーミル・プロップ『昔話の形態学』41-101頁参照

2 関敬吾『日本昔話大成2』14-45頁

3 『日本昔話大成2』45-64頁

4 『日本昔話大成3』8-24頁

5 この表中の□はプロップの分析記号ではなく、記号を割り振る行動自体が無いことを指す。

6 『昔話の形態学』61頁、133頁

7 『日本昔話大成3』26-39頁

8 『日本昔話大成2』201-218頁

9 関敬吾編の岩波文庫の昔話集から引用している（頁要加筆）

10 プロップの理論を基にしたストーリー生成システム

11 これもプロップの分析では昔話に併記する形で分析記号を挙げているが、本稿では表に変換した。

12 『昔話の形態学』323頁

13 『ストーリーメーカー 創作のための物語論』38頁 - 41頁

14 『昔話の形態学』127-128頁

15 主人公が贈与者に対し良い反応を示し褒美をもらい、それを真似たニセ主人公は贈与者に対し悪い反応を示し罰される話。日本昔話では「花咲か爺さん」、ロシア昔話では「マロースおじさん」などが該当する。

16 『日本昔話大成2』158-175頁

17 序章を参照。